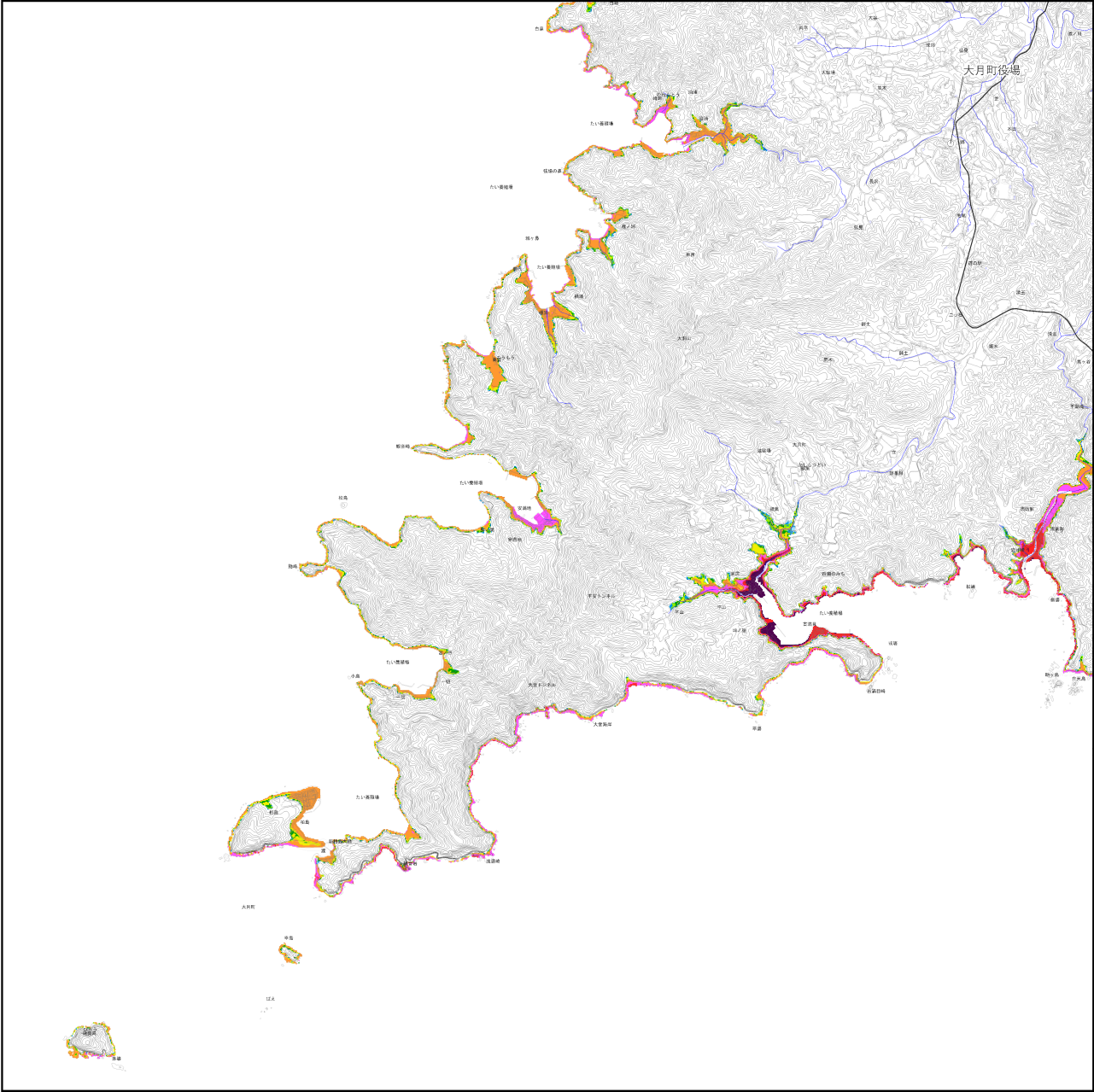
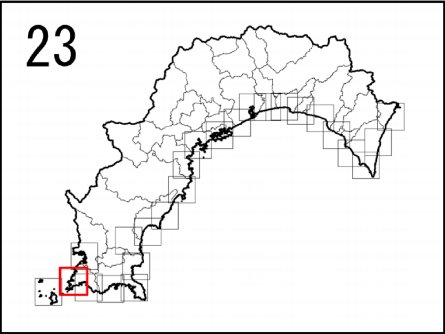
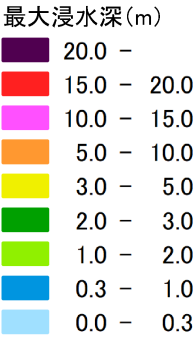


6-4 津波浸水予測図 23 大月町(その2)



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。
(測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 7JHs 323)



【避難すべき場所がわかります】

・さらにもう一段高いところにすぐに上げられるような高台を目指して逃げましょう。近くに高台がない場合は、浸水深より高い建物や、津波避難タワーなどを避難場所として検討しましょう。

その1「自助と共助で備える。あなたの命はあなた自身が守る！」
その2「想定にとらわれず、最善を尽くす！」
その3「取り組みに無駄はない、できることから実行を！」

注意事項

・この図は、最大クラスの津波による浸水域・浸水深を重ね合わせて示しています。
・土で築堤された堤防：地震後は堤防高さの75%が沈下し、津波が堤防を越流し始めた時点で「堤防高ゼロ」としています。
・コンクリート構造の堤防（防波堤）：最大クラスの地震（L2）に対する耐震性評価結果を考慮し、各区間ごとに沈下量を設定しました。耐震性評価結果のない堤防については地震と同時に「堤防高ゼロ」としています。
また、津波が越流し始めた時点で「堤防高ゼロ」としています。
・**浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響などにより、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。**

